

高齢者の三色配色嗜好(1) - 服装色について -

今井弥生* ○橘 喬子**井澤尚子* 長塚こずえ*³ 椋梨純枝*⁴ 家永晶子*⁵ (* 東京家政学院短大** 夙川学院短大*³ 東京家政大短大*⁴ 宇部短大*⁵ 樟蔭東女短大)

目的 少子化傾向に反して世界に例のない高齢化が進展している。2020年には65歳以上の人口比率は26%と推計(厚生省人口問題研究所)される。色彩・意匠部会では1987年から高齢者の色彩感情の実態について調査を実施してきた。高齢者が嗜好する多色配色に関するデータは皆無と言っても過言ではない。現代では多くの人々が何らかの形で身体的にも精神的にも傷つき、癒しを求めている。本報では高齢者の嗜好する服装色から、いかに楽しく健康に生活者として生きていくかの指針とするため、衣色彩計画の基礎資料を得ることを目的とした。

方法 1) 対象 65歳以上の健康な男女2,001名 2) 試料 JIS Z 8721より系統的に選択した80色をN7の台紙に貼付したカラー・チャート 3) 調査場所・期間 部会員が在住する地域の老人クラブ、敬老館、在宅等で1987年9月1～30日に実施 4) 質問紙法、面接調査 5) 観察条件 JIS Z 8723に準じ、北空昼光、晴天、照度800Lx以上、試料と目の距離30cm、垂直上方から観察、JIS Z 8102により分類 6) 調査内容 着装したい三色配色を色相ごとに集計し、その嗜好率と相関、性別、色相とトーンの分布から高齢者の配色特性を分析する。

結果 男女ともに三色配色嗜好1位は無彩色のN9.3とN7.5とN1.2、2位は3.6YR2.6/3.2(チョコレート色)と10YR7.1/1.2(ベージュ)とN9.3(白)、3位は無彩色のN7.5とN5.4とN3.6であり、男女間の相関は0.72と高く配色嗜好が類似する。二色配色と上位嗜好色は同じであるが、男女相関は異なる。性別では女性は全色票を用い、男性は7.2R6.7/9.2と5.3P2.6/8.3は用いない。単色の嗜好色のPB系は服装色ではトーンが低い。無彩色との配色が好まれる。衣色彩計画には清潔、落ち着いた着ぎ、安らぎを求めていると考えられる。